



特集

瑩山けいざんぜんじ禅師ものがたり ⑧



瑩山さまの二年におよぶ雲水修行の旅は

曹洞宗の行方にも影響を与えるものでした

再び雲水修行の旅へ

十九歳で仏道への決意を不動のものにされた瑩山さまは、宝慶寺から再び雲水修行に旅立たれました。まず京都にのぼり、その当時隆盛を誇っていた東福寺の門をたたかれました。東福寺は、東大寺の「東」と興福寺の「福」から名付けられ、両寺の良さをあわせもつ巨大な寺。天台と真言を重んじながら、禅の修行もしていました。密教色の強い禅と言えます。

瑩山さまの禅は、道元さまの厳しい禅風とは異なり、柔軟性や包容力が見られますが、こうした雲水修行の中で育まれたものかもしれません。

和歌山で法燈さまに出会う

やがて、瑩山さまは和歌山に足を延ばされます。由良の興国寺に法燈禅師を訪ねられました。法燈さまは道元さまから菩薩戒を受けた方で、その後中国にわたり、有名な禅の書物『無門関』を日本に持ち帰りました。金山寺味噌を日本にもたらし、味噌、醤油、豆腐の製法を伝え、広めました。また、虚無僧の尺八も日本に伝えたといわれます。

法燈さまの禅も真言密教をベースにしていますが、それだけでなく親鸞聖人を訪ね、一遍上人に禅の印可を与えています。瑩山さまも法燈さまから大きな影響を

No. 63
2021 Summer

山松 含
寺南 臨

受けたようです。瑩山さまの現実性、在党性、大衆性への転進のキツカケの二つになりました。曹洞宗が日本の教団に発展していく基礎は、こうして形作られていったのです。

永平寺の中に不穏な空気

瑩山さまが雲水修行で永平寺を留守にしていたころ、永平寺ではちよとした騒動が持ち上がっていました。義介さまが懐契さまから永平寺の三代目の住職を継がれたところから、どこからともなく不協和音が聞こえ始めたのです。

義介さまは懐契さまの命により中国に渡りました。帰国してから永平寺の伽藍を整え、僧たちの規則を改め、永平寺の中興と仰がれました。そうした義介さまの手法ややり方を批判する者やねたむ者が、じわじわと勢力を伸ばしていきました。

義介さまを取り巻く永平寺内部の不穏な空気を察して、義介さまも瑩山さまの雲水修行をこころよく送り出されたのでしょう。

義介さまとともに大乘寺へ

瑩山さまが二年におよぶ雲水修行の旅を終えて永平寺の義介さまのもとに帰って来られました。瑩山さまは二十二歳になつていました。瑩山さまの成長ぶりに目を見張った義介さまは大いに喜ばれました。

「おお、瑩山、立派になった。まるで生まれ変わったようじゃ」

「さまさまなお坊さまに会い、さまさまなお話を伺いました。まだまだ分からないことがいっぱいです」

瑩山さまが帰られてからも永平寺内部の対立はさらに深まりました。とうとう翌年には義介さまは永平寺を去られることとなります。加賀(今の石川県)の野々市の大乗寺の開山となられ、瑩山さまとともに移られました。



現在の大乗寺の山門

信心の 母にしたがふ 盆会かな 飯田蛇笏

八月はお盆、 九月はお彼岸です



八月はお盆

臨南寺のお盆は、八月十日、十一日のお墓経から始まります。

十六日には、盂蘭盆会施食会を

修行いたします。亡き人やご

先祖様など、各家にゆかりの精霊をご回向させていただきますのでお参りください。

九月はお彼岸

九月二十二日、二十三日にお彼岸のお墓経を行います。

二十六日には、彼岸会施食会の法要を行います。お彼岸

はご先祖様に感謝し、自分の生き方を振り返る大切な期間です。ご先祖様をしのび、

ご家族の今に感謝いたします



盂蘭盆会施食会では各家にゆかりの精霊をご回向いたします

よう。

ご都合が悪い方は、いずれの行持も不参にてお受けしますので、お問い合わせください。

寺景 百景



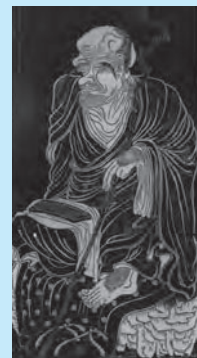
十六羅漢さま 第一回

臨南寺の羅漢さまは、ご本尊さまをまつる内陣の左右に、八人ずつ分かれていらつしやいます。合掌されていたり、巻物を持っておられたり、一人ひとり違った特徴があります。内陣にあるので少し見にくいのですが、本堂にお参りされた時はぜひ一度、そのお姿に触れてみてください。

羅漢さまとはどんな方なのでしょう？ 羅漢は阿羅漢の略で、「修行を完成した人」「悟りをひらいた高僧」のことです。お釈迦さまの弟子のうち、特に優れた十六人の弟子を十六羅漢といいます。羅漢さまは、涅槃に入ろうとするお釈迦さまから「永く現世にとどまり仏法を護持して衆生を救済せよ」といわれ、各地で仏法を守り伝えました。

今回から四回にわたって、四人ずつご紹介していきます。

第一 賓度羅跋囉惰闍尊者
この羅漢さまは、日本では「おびんする様」として親しまれてきました。像をなでて患部をさすると病が治ると信じられています。



ビンドラバラダジャ

第二 迦諾迦跋蹉闍尊者

この羅漢さまは、お顔に大日如来の相があり、神僧三昧の水をもって傷を洗うと、たちどころに治るといわれています。



カナカバッサ

第三 迦諾迦跋蹉憍闍尊者

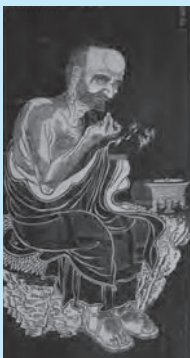
この羅漢さまは、須弥山の東におられると阿含教典に書かれています。



カナカバリダジャ

第四 蘇頻陀尊者

この羅漢さまは須弥山の北にお住まいで、長寿と花の守護尊といわれます。



スピ ندا

たとえ難値難遇の事あるとも 必ず和合和睦の思いを生ずべし

早いもので今年もお盆の時期が近づいて参りました。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響で何かと制限が多く、普段通りの生活ができないう状況が続いております。

お寺の行事も従来の形式での修行が困難な状況ですが、何とかこの状況下でも行事が行えるよう模索しているところです。

そんな中、コロナ対策として希望の光ともいえるワクチン接種が、少しずつではありますが進んでいます。自分が接種するとすると、不安な部分もあります。自分が接種することによって周りの人たちの感染が抑えられ



臨南寺 住職
大澤正道

るのであれば、ためらっているわけにはいかないと思います。

前にもご紹介した瑩山禪師様が遺された「たとえ難値難遇の事あるとも、必ず和合和睦の思いを生ずべし」というお言葉が正に今必要ではないでしょうか。皆が手を携え協力しあえば、ウイルスに打ち勝つことができ、近い将来普段通りの生活が戻って来ると思います。

臨南寺行持予定（八〜九月）

○ お墓経
*八月十日 午前十時〜正午
*八月十二日 午後五時〜八時

お盆のお墓経を行います。どちらかご都合のよい日にお越しください。塔婆の準備がございますので、必ず事前にご連絡ください。回向料三万円

○ 弁財天万灯会（本堂）
*本年は中止とさせていただきます。

○ 孟蘭盆会施食会（本堂）
*八月十六日 午前九時〜十二時半

お盆供養の法要を行います。各家のご先祖様とご縁の深い精霊のご供養をいたしましょう。どなたでもご参加いただけます。回向料二万円

○ お墓経
*九月二十二日 午前十時〜午後三時
*九月二十三日 午前十時〜午後三時

どちらかご都合のよい日にお越しください。塔婆の準備がございますので、必ず事前にご連絡ください。回向料二万円

○ 彼岸会施食会（本堂）
*九月二十六日 午後一時〜二時半

お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝し、わが身を省みる大事な期間です。ご先祖様をしのび今あることに感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。回向料二万円

*なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止することや変更する場合もございます。臨南寺の行持については、臨南寺のホームページでご確認いただくか、電話でお問い合わせください。

寺務所の電話 ○六・六六九八・一〇〇二（九時〜十七時）

早朝坐禅会、写経会とも
しばらくお休みさせていただきます。
ご了承ください。

渡邊剛毅前任職の

十七回忌追善法要

六月二十六日、当山二十二世重興朴洲剛毅大和尚の遺徳をしのび十七回忌追善法要が営まれました。本来なら昨年が十七回忌でしたが、新型コロナウイルスの蔓延状況に配慮して今年に延期されました。

午後三時、鐘の音を合図に法要が始まりました。曹洞宗の大阪第一教区の方丈様方が見守るなか、臨南寺を重興し曹洞宗の重責を担われた前任職の遺徳をたてる法語が唱えられました。そして、参列者一人ひとりが焼香を行い、前任職の冥福を祈りました。コロナ禍の中でなければ、檀家の皆様にもご参列いただきたかったのですが、それはかないませんが、紙面を借りて、ご報告させていただきます。



前任職の遺徳をしのび、参列いただいた方丈様方

お盆とお彼岸は、車が込み合います

境内の歩道は、徒歩の方や車椅子の方だけでなく、自転車の方もご利用いただけます。

数年前から、当寺院の境内地で人身事故が発生しています。境内での運転は最徐行でお願いします。

改善される様子が見られなければ、車両の乗り入れを禁止いたします。

なお、境内地内での

事故等につきましては、当寺院では一切の責任を負いません。



この歩道は、自転車もご利用ください

編集後記

新型コロナのワクチン接種を受けました。予約した会場に入ると番号札を渡され、1人ずつ呼ばれてブースに入り、医者との問診のあと看護師から注射されました。その後15分待ち2回目を予約して無事終了。この安心感は何とも言えません。さらに多くの方が接種を受けられるよう祈っています(M)

お墓参りにも マスクを 忘れずに



お墓参りされる方の中にマスクをされていない方をお見掛けします。新型コロナウイルスに「うつらないため」にも「うつさないため」にも、マスクは必要です。マスクの着用を忘れずにお願いします。もう二つ手指の消毒ですが、休憩所にアルコール消毒液をご用意しております。どうぞ自由にお使いください。何かとご不便をおかけしますが、私たち一人ひとりが身の回りからウイルスを遠ざけるためにご協力をお願いします。

「ほ〜っと」63号

令和3年7月

編集・発行： 稜伽林「ほ〜っと」

編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com